

APR. 23
1999

宮城県壮年テニス連盟

会報 第 27 号



※※※

委員長 伊藤 一利

何を市政の日玉、記念事業のテーマとするかは、各自治体の工夫でありましょうが、会津若松市が市政100周年の記念イベントとして、デ杯対ウズベキスタン戦を招致したということで、「仙台であれば良いのになあ」と思いながら過日観戦に出掛けてきました

久方振りに南下する東北自動車道でありましたが、蔵王に続く吾妻連峰さらに飯豊の遠望、いずれも残雪が陽光を一杯浴びて眩しいばかりに春を告げておりました。加えて北上する対向路線をそれこそ絶え間無く疾走する何百台ものすれ違う大型トラックの有り様に何やら「日本の強さ」を感じ妙な感動を覚えたことでした。

肝心の試合の方は、日本選手の健闘も虚しく残念なことに敗れてしまい、「ニッポン、ニッポン」の応援の手拍子に少し疲れを覚え、また恐らく五千人ぐらいが定員と思われる「あいづ総合体育館」も、やたらに空席が目立ち何となく日本テニス界の現状を垣間見た思いのしたことは淋しい限りでありました。

私共の連盟がそのために何を出来るというものではありませんが、会員の皆さんがテニスによせる願望や連盟に対する期待はそれぞれ異なっても、テニスの魅力にとり憑かれた仲間の集まりであることには違いはないと思いますので、その願望・期待を解決する手段の一つとして、今年も連盟の行事への積極的なご参加をお待ちする次第です。

とくに高齢者(表現が難しいですネ)にとっては、兎角引っ込み思案になり勝ちですが、「老人力」の著者赤瀬川さんの説く様に、例えば速いボールに追い付けなくとも、前後にゆすぶられて動けなくとも、それは若い人に真似ので出来ない新しく生まれた「老人力」?であると信じて、平和なニッポンに住む幸せ、健康であることの喜びを、大いに満喫しようではありませんか。

駒「球春にトシを忘れることにする」

※※※

目次

- 幸せニッポン 委員長 伊藤 一利
- テニスは人生の伴侶 米竹祐一郎
- 転居・テニス・友人 本間 満雄
- 本間夫婦との山旅の思い出 北野 寿一 妙子
- 人との出会いと本間さんのこと 山本 忠
- 北海道熟年TC便りから
- 「ノー・アド」方式に関連して
- MVTF NEWS
- 平成11年度連盟行事予定表
- 平成11年度県マスターズテニス春季大会

- pp
- 1
- 1
- 3
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 8

テニスは人生の伴侶

米竹 祐一郎

六十に手が届く頃にテニスを始めた。高校一年にソフトテニス(当時は軟式テニス)を始めて以来、二十年程ソフトテニスとのかかわりを持っていたので、正確にはテニスを再開したと言うべきかもしれないが、テニス(硬式)との出会いは初めてであり、正に六十の手習いである。

白石高校の軟式庭球部に入部したのは昭和24年で、戦後の食料事情の良くない時代であった。まだ戦前の軍国主義教育の名残りが濃く、上級生、下級生の階級制度が厳として存在していた。テニス部は練習時間の長いことで有名であった。それに当時はサマータイムであったので練習終了が午後8時、帰宅して夕食をとるのが午後9時をまわるのが常だったと記憶している。目指すのはインターハイ。苦しい練習に耐えられたのも目標があったからこそと思う。幸い団体、個人とも県予選を通過、意気揚々だった。



大学卒業後中学の教師となりソフトテニス部を指導することになった。球だしに夢中になる。幸い素直で素質のある良い子供に恵まれ、地区大会を勝ち抜いて県大会に何度も駒を進め、実績を上げることが出来た。高校時代にテニスに打ち込んだことが、教師になってから大いに生かされたと思う。「芸は身を助ける」若い頃の習い事は大事だと身をもって感じる。

数年に一度は優れたセンスの持ち主が現れる。今になって思う。中学から「硬式」を始める子供が多くなれば、松岡修造クラスの名選手が数多く現れるにちがいない。県内中高のテニスはまだソフトテニスに偏っており「硬式」の部を設けている学校は極めて少数である。中学から硬式をやらせるようになれば、県内のレベルも飛躍的に伸びるにちがいない。

ソフトテニス部の指導のかたわら、四十代初めまでは市のソフトテニス協会の役員をつづけ、大会の運営などにかかわってきたが、中年にさしかかるにつれて仕事も多忙になって全くテニスから離れてしまった。スポーツを急に止めると体に良くないと云われるが、そのとおりでこのころから体調をくずしてしまう。せんだいタウン情報にスポーツランドSUGOのテニスクラブ(村田町)でテニスのレッスンをしている記事を見つけた。週一回のレッスンに通うことにした。ボールを打つコーン、コーンという心地よい音がたまらない。ソフトテニスにない魅力がある。たちまちとりこになってしまう。これが私のテニス「硬式」との出会いでした。

退職して暇になると週一回のレッスンでは物足りなくなる。地元には白石テニス協会があることを知り、早速入会する。早朝6時から練習に毎日のように通う。間もなく協会会長の加藤文二さんより宮城県壮年テニス連盟を紹介されすぐ入会した。二人でウィークデイ交歓会に参加したことを覚えている。

テニスは何歳になっても出来る健康的なスポーツと云われる。たしかにそのとおりで本県でも70歳以上になっても元気でプレーしている方が少なくない。高齢になる程筋力も走力も弱くなるが、腕前はかなりの水準を保っておられ驚きである。

テニスは一見はなやかなスポーツのように見えるが、プレー自体はむしろ地味である。勝敗はナイスショットより凡ミスの数で決まることが多い。力の衰えをカバーしてポイントをあげるこつはこの辺にあり、高齢の方たちはこれを忠実に実行しておられる。学ぶことが多い。

健康のためのテニスなら腕前はどうしても下手は下手なりに楽しめばよきそうなものだがそうはいかない。腕が落ちるとパートナーに迷惑をかけることになる。

テニスはなかなか上昇志向の強いスポーツである。自分より少しでも上手な相手とプレーしたがる傾向がある。上級者にいどんで惜敗するほうを好む。練習でもボールをコントロールしてくれる上級者を

相手にする方が効果が上がる。したがって、上手になれば相手をしたがる人は多くなり、逆の場合はそれが逆方向に作用してみじめである。初心者が苦勞するのはこの辺にある。クラブでも協会でも週末はみんなテニスを楽しむのに夢中で人の面倒までみる余裕はない。

近頃、筋力と走力、反射神経の衰えを感じて来た。練習量も以前より減っている。しかし、何とか腕前だけはある水準を保っていきたい。歳をとってもテニスを続けるためにはこれは絶対に必要である。

しばらく前、中村副委員長さんより電話を受けた。仙南地方のテニスについてまとめて欲しいという要望である。余計なことに紙面を割いて失礼になりおわびしたい。県南部のテニスの現状を私のわかる範囲のみ述べ、責任を果たしたい。

●白石市

テニス協会結成 平成5年度、15年間ソフトテニス協会傘下の硬式テニス部として存続した後独立する。

壮年テニス連盟会員 3名(加藤 米竹 岡崎)
市営コート 8面(オムニ6面 アンツーカー2面)

今年度オムニ2面竣工予定

年間の活動

シングルス大会 春秋2回

ダブルス大会 春秋2回

市内職場対抗テニス大会 年1回

早朝テニス 4月~10月(150日程)

テニス教室 毎月 日曜日1回

●角田市

白石市とともにソフトテニスの歴史の長い土地である。硬式は昨年度愛好会が結成され、今年度に協会が出来見通しになっている。硬式の歴史は浅いが、市の大会への参加者も多く、役員も意欲的でこれから伸びる地域である。施設も充実している。大会への参加など白石市との交流も深い。

市営コート オムニ10面(8面、2面の2ヶ所)

対いわきVTCとの親善試合の開催に適地と思うが、近くに宿泊地(温泉)がないことが難点である。

●大河原町

テニス協会の結成は白石市より古く、会員も多い。地理的に仙南の中心地にあるため柴田町等の愛好者も会員となっている。コートは少なく、オムニ4面のみ。

●岩沼 名取方面

岩沼の朝日山公園コート(ハード4面)名取スポーツパーク(東北電力コート)その他施設にもまれ、愛好者・サークルなどの活動も盛んで県南では全ての面で一番レベルが高いのではないか。やはり、仙台近郷という利点がある。当連盟の会員も多い。

●会員制クラブ スポツランドSUGO T.C

コート ハード 12面 インドア 3面(ソフトラバ)
仙台南ICより車で約15分

スクール レッスンあり 年 4期 32回

私も気晴らしに週1回通っている。30代~40代前半の主婦層が多い。女子連の大会や県民大会に出場している。しかし、当連盟のこと、ましてやねんりんピックのことなど全く知らないし関心がない。休憩時間に私の出たねんりんピックを話題などにして、当連盟の宣伝をしている。

Sports の語源はフランス語の Disporte「心が離

れる」から来ていると聞いている。つまり、「気が晴れる」という意味になると云われている。老化防止と「気晴らし」のため、末長くテニスが続けられればと願っている。郡部に住む者のハンディを乗り越えて、連盟の行事や大会に出来るだけ参加したい。役員の方々には、県内各地のテニスに気配りをいただいて感謝申し上げます。今後ともご支援とご指導をお願い致します。



★ 転居・テニス・友人 ★

本間 満雄

会報20号に「転勤・テニス・友人」の表題で、昭和53年に転勤で千葉県市川市から仙台に来て、壮年テニス連盟にも入れてもらい、テニスの友達が出来、テニスがとても楽しくなった事を書き、24号では長テニラケットを使い出して全日本ベテランテニス選手権大会に参加することができ、日本シニア全国大会でも好成績を収められた事を書かせてもらいましたが、仙台に住んで21年経った今、再び市川市に戻る事となり、今度は転勤ではなく「転居・テニス・友人」の表題で書く事となりました。

仙台では途中「東京に戻るか」との話もありましたが、仙台は住み良いのでこのまま良いと12年間会社勤務をした後リタイアし、その後は9年間の自由を満喫させてもらいました。

今度の転居は仙台に飽きて市川に移るわけではなく、転勤前住んでいた市川の自宅が老朽化したり、義母が老齢となって、離れて住んでいる訳はなくなかった等の事情が重なってきた為なのです。

仙台での21年間、テニスを楽しみ、スキーをやり、山に登り、温泉につかり、観光をしていろいろな友人達と楽しんで来ました。(勿論、在職中は一生懸命仕事もしましたが) 又、リタイアした後は海外に行ってテニスをする事も出来ました。

昭和58年にはスキーで膝の靭帯を切り、左足があまり曲がらなくなり、障害者手帳をもらう羽目になると云うおまけもありましたが、東北についての

多くのことを学び、知り、更にいろいろな方々にテニスの相手をして頂き、教えて頂いたことで腕も上がったような気がしています。テニスの道具も年々進歩しており、私の場合は、長テニラケットを使ってみたことも良かったようでした。市川に行ってもこのラケットは使い続けて行けそうです。

いろいろな事を致しましたが、今一番楽しいのはやはりテニスです。特にいろいろな方々とテニスができ、友達となれたことは大きな収穫でした。東北マスターズで青森、秋田、岩手、山形、福島の方々と交流ができ、「しわき」との親善交流会、連盟の三大会や、シニアクラスで行う菊田メモリアルなど、いろいろな催しで楽しめました。「ねんりんピック」に出られたのも仙台に住み、壮年テニス連盟に所属していたお陰です。

練習会での女性会員とのテニスも楽しいものでした。先日テレビを見ていたら老化防止には異性と会話を楽しむのが良い、大脳の働きが活発になり老化を防げるからだと話している大学の先生がおりました。壮年連盟には素晴らしい女性が沢山おり、私も大いに大脳を活性化させてもらいました。

宮城県壮年テニス連盟には昭和63年発足と同時に入会してもらいましたが、市川に移っても会員として登録を残しておいて頂けるようなので、今後も会員を継続させて頂き、時には練習会、大会に参加させて頂きたいと思っています。

自分の事ばかり勝手に書きましたが長い間会員の皆様と一緒に楽しんでこられたことを心から感謝致します。



本間夫婦との 山旅の思い出

北野 寿一 妙子

本間夫婦と一緒に、山に登り始めたのは、八年前の夏、八幡平から秋田駒ヶ岳、乳頭山縦走の二泊三日の山旅が最初であった。その後毎年の様に夏の高山植物、秋の紅葉を求めて、主に東北の山に登り続けて来た。数々の山行の中で印象に残った山行の一部を思い出しながら振り返ってみる。

● 八幡平、秋田駒ヶ岳、乳頭山縦走(平成3年7月)

初日は海拔 1,400m の高所にある藤七温泉に一泊、360度展望のきく露天風呂に三夫婦揃って入浴、湯船から見る満天の星空が実に印象的であった。秋田駒ヶ岳から乳頭山縦走の途中、干沼ヶ原に立ち寄った。

二時間近く池塘を散策、その間、単独行の学生に出会ったきりで、風の音と時折鳴く小鳥の声が聞こえるのみで、あとは静寂そのもの。そして木道に座り込んで食べた秋田こまちのおむすびのおいしかった事!

● 焼石岳(平成4年7月)

銀明水小屋から少し登ると、ハクサンイチゲに囲まれた大雪渓がある。その雪渓でビニールシートをお尻に敷いてソリ遊びに興じた楽しい思い出。

● 烏海山(平成5年7月、8月)

最初の挑戦は、滝の口登山口駐車場から一步も外に出られない程の豪雨。一カ月後の二度目の挑戦は、河原宿小屋で一泊。翌日心字雪渓に登り切り、アザ

ミ坂の急登坂の途中で雨が激しくなり、稜線まであと一步のところまで無念のギブアップ。と悔しい思い出。

● 会津駒ヶ岳、尾瀬(平成6年7月)

駒ヶ岳では天候に恵まれず、山頂からの展望は全くきかず、ただ濃いガスが垂れ込めているだけであったが、雪溪のほとりに咲くハクサンコザクラのピンクの花びらが長い登りの疲れを癒してくれた。

翌日は幸運にも晴天。大江雪原にはニッコウキスゲの大群落。尾瀬沼の湖面に映える燧ヶ岳の雄姿。尾瀬の素晴らしさを満喫した一日であった。

● 裏岩手山縦走(平成6年10月)

大深岳の登りの途中、突然雪が降り出したので、大急ぎで大深小屋に避難。ストーブで燃える薪の暖かさが今も忘れられません。

● 朝日連峰 以東岳(平成7年10月)

大鳥小屋を4時30分に出発。星空が実に美しい。東の空が明るくなる頃、稜線に出る。雲海の彼方、朝日連峰の主峰、大朝日岳が朝日に輝いている。以東

岳へは大朝日岳からの山脈を眺めながらの快適な登り。夏ならばヒメサユリの可憐な花が咲き乱れる雲上の楽園でもある。

● 北海道 利尻 礼文 大雪山(平成8年7月)

利尻では天候悪く、登頂を断念。礼文島では、北端から香深まで西海岸約25kmを踏破。本土では1500m以上の高山にしか見られないウスユキソウ、ハクサンフクロウ、レブンソウ等の高山植物が道端のいたる所に咲き乱れ、歓喜の連続。

大雪山では、黒岳に登る。山頂からの大雪山系の雄大な展望に暫し時を忘れた。

その後、以東岳からの急峻な下りで、痛められた奥さんの膝の具合が思わしくなく、北海道を最後に暫く登山を見合わせざるを得なくなった。一日でも早い回復を待ち望んでいます。そして、まだ山頂を極めていない烏海山、また、憧れの飯豊連峰への挑戦と、又一緒に山へ登れる日を仙台でいつまでもお待ちしております。

※※※

人との出会いと 本間さんのこと

山本 忠

長い間、本間さんとダブルスを組んでいるいろいろな大会に出場し、勝敗に関係なくいつも楽しいテニスをしてきました。今回諸般の事情で、多少遠くに離れることになりましたが、今までも一緒に練習したことなど無く、いつもぶっつけ本番で全く違和感無くプレーしてきましたので、これからもチャンスがあれば、東北の大会や関東の大会に組んで出たいと思っています。本間さんとはテニスだけでなく、家族ごとのお付き合いで、登山やスキーにもご一緒させて貰っておりますが、車の中や夕食時の話題の豊富なことには驚いています。このおしゃべりは私にとって今までに無かった経験で、住宅に関する事、塗料や化学の事、オーディオ機器に関する基板や真空管の事、コンピューターの古いプログラム言語の事(コボルやフォートラン(私も20年以前に使っておりました))、PC9801FAの話(私の持っていたVMよりもっと古いらしい)、膝や肩の怪我や目の手術の話などなどで、長い筈の道中があとと云う間に終わることもありました。今回、会報に本間さんの事を書いてくれと言われ、本間さんとの出会いを今更のように思い出しました。

一寸横道にそれますが、たしか昭和60年の暮れ頃、今のニューワールドTCがフタバ中山TCと呼ばれ、屋外コートしかなかった頃、小山スクールで上山先生と知り合い、先生の「宮城県テニス協会の公式試合に出るには一寸腕が足りないし、歳が足りすぎてる様な人が、一日楽しくプレー出来て且つ、いろいろな人と出会える場を作りたい」との説に大いに賛同し、準備委員会、発起人会、運営委員会などお手伝いしてきました。上山先生も大きな出会いの一人です。壮年テニスが始まってすぐに特攻隊出身の久保さんと知り合いになりました。ほとんどの皆さん

は特攻隊をご存じと思いますが、55歳以下の方はその頃生まれていなかった訳ですから、また解説を入れます。小さな戦闘機(セスナに一寸毛の生えたような)に積めるだけの爆弾をつんで、空から敵の戦艦や航空母艦に体当たりし、(敵も必死に防衛、攻撃してきませんからとても難しいことですが)こちらは死ぬのは自分だけ、敵は千数百人プラス百数十機を失うという戦法で、航空隊の中でも特に操縦技術が優秀で、若くて、天皇陛下と大日本帝国のために命を捧げることの出来る人だけが志願できるものです。(書いていて自分の古さに驚いています)この久保さんが生き残ってその後結婚され、その奥様を失われて、人生の生きがいの一つをテニスに見つけられて活躍しておられました。この人生観を持った久保さんも私の大きな出会いの一人です。この久保さんから「パートナーに丁度いい人が居るよ、組んでみれば」と紹介されたのが本間さんでした。組んで見ると何から何までぴったりでした。仲人が久保さんだから戦術、戦法がぴったりは勿論ですが、負けても何ら悔いが残らず、楽しい思いでだけが残るという、またと得難いパートナーです。壮年テニスは勿論、県テニス協会の公式戦、東北マスターステニス、ねりんピック、東北ベテランテニス等全部組んで、コートの2/3をお任せして楽しんできました。東北ベテランで棚倉に行ったときは、一日一試合で3セットマッチでしたが、どうせ一回戦で負けるだろうからと宿を取らずに日帰りを出掛けました。運良くその日は勝ってしまい、仙台に戻ってまた次の日、今日こそは負けるだろうと出掛けて行き、

また勝って結局白河・仙台間を三往復しましたが、高速道路片道3時間余り、いろいろな話題で楽しませて戴き、男同士の会話の有効性を知りました。また同じ東北ベテランで岩木山に行ったとき、弘前のホテルを二泊予約して行ったのですが、初日に負け

てしまい、「二泊目をキャンセルしてパークTCでテニスをしよう」ということになり、朝早くホテルを出発して、10時まえにはもうコートに立っていました。

この時も会話が弾み、あっという間に着いた感じでした。いま家に金メダルや賞状がいっぱいあります



北海道熟年TC便り から 会報編集部

前号でご紹介いたしました「北海道ベテランテニス便り」の概要が最新の「北海道熟年テニスクラブ便り」に掲載されており、編集者の読後の感想が書かれておりますので紹介いたします。

前号では、「北海道内で開催される各種のテニスの大会では、3セットマッチが主流であり、男子の60歳以上、65歳以上の単複、70歳以上の複、女子の50歳以上、55歳以上の単複および60歳以上の複においても3セットマッチで試合が行われている。さらに、参加選手も非常に多い。」という内容の紹介文に対する感想です。

☆ 東北地方のベテランテニスには3セットマッチは無いのだろうか、そのことの方が不思議である北海道では道協会の下に直接市町協会がある。此れに反し、北海道以外においては東北テニス協会のように各地域協会の下に県協会が在り、更にその下に市町村協会がある。即ち、住民と地域協会との係わりが北海道よりも1クッション多い。此の1クッションの違いは全国的にも非常に大きい様である。北海道熟年TCも道協会に直接支えられているのは上記会報の紹介に指摘されている通りである。 ☆

北海道熟年TCの会員年齢が60歳以上ということなのでここで述べられているベテランテニスは60歳以上のベテランプレーヤーに限定されたお話しのようです。それにしても、テニスの試合は3セットで行うのが当たり前のように書いておいてになり、いまさらながら、宮城県を含めた東北地方のテニスの試合について考え直す必要があるように感じます。

誤解を生じると困りますので、若干、付け加えさせていただきます。北海道熟年TCでは、頻りに会員相互の親睦と練習を兼ねてテニスの集まりを各所で持たれておりますが、このような場合では、6ゲーム先取や1セットマッチでやられるケースが多い様です。

当壮年テニス連盟の会員の皆さんは、スキーの為にオフシーズン（スキーの）中、足腰を鍛えるため、ビールを美味しく飲むため、健康の為、テニスを通じて友達をつくる、テニスの技術を磨く、対外試合で未知の所へ行ける、異性とテニスをする事で若返る・・・いろいろな理由や目的を持ってあるいは面倒な理屈抜きでテニスだけを楽しむというように幅広い領域にわたってテニスというものを考えておいてです。そこで、数人の会員の方々を無作為に抽出させていただいて、テニス、とくに3セットマッチに対するご意見を伺わせていただきました。

が、仕舞ったまま出して見ることはありませんでした。今日これを書くに当たり、出して見て次々に楽しかった思い出やら、人との出会いが浮かんできました。本間さんと壮年テニスに感謝いたします。いつまでもテニスを、いつまでも健康を。

甘口、辛口いろいろなお意見でした。このような質問形式でのお伺いに対しては、比較的、気安くご自分の考えや経験を述べていただけそうなので、今後の会報では、原稿依頼と同時に「ご意見伺い」形式で会員皆さんのご意見、体験、とっておきの裏話等を掲載してゆくことも考えております。

●Aさんの意見

テニスを始めたのが遅く、試合が3セットとか5セットとかで行われるのはテレビで見るウインブルドンとかジャパンオープンとかのプロのやる試合だけで、自分たちのテニスとは縁遠いものと思っていました。シングルの試合もしたことはありませんし、実際、あんな広いコートを一人で走り回るなんて考えてもみませんでした。テニスは4人でダブルスをして楽しむのが一番だとも思います。気心の知れた者同志でしたら、パートナーをとっかえひっかえて6ゲーム先取くらいで何度も試合をした方がいいですよ。長くつらい試合であんまり勝ち負けに拘ると後味が悪く、テニスの後のビールが不味くなります。適当に楽しんで、適当に疲れて、適当に飲んでぐっする眠る、これがテニスの醍醐味ですよ。

●Bさんの意見

私は5年まえに硬式テニスを始めるまでソフトテニスを長い間やって来ました。ソフトテニスの場合には1セットが硬式テニスの1ゲームであり、5セットマッチ、7セットマッチの試合ですから、硬式流に言えば、3ゲーム先取、4ゲーム先取になりますので、今連盟の行事で行われている6ゲーム先取の試合については別に違和感をもちませんし、かえって試合が長く、勝っても負けても充実感があります。ソフトテニスはダブルスが主体ですので、シングルスでそれも3セットマッチなんていうのは想像もつきません。疲れ果てて、心筋梗塞でぶっ倒れるのはゴメンこうむりたいものです。3セットマッチなんてものはもっと若い連中に任せておけばいいですよ。

●Cさんの意見

学生時代にはスポーツ経験は皆無でした。40歳を過ぎてから、健康維持のために今のクラブに入会し、テニススクールに通ってテニスを覚えました。始めはラケットにボールを当てるのが精一杯で、ねらった場所にボールを打つなんてことは全く不可能であるように感じていました。しかし、習うより慣れろといいますが、1、2年でまがりなりにもゲームが出来るようになり、あのコーン、コーンという打球音の心地よさとゲームの面白さが私をテニスの虜にしてみました。もちろん、ダブルスのゲー

ムだけですが。そうこうしている内に15年くらい経ってしまいました。ある時同じクラブの友人からテニス協会が主催するテニス大会に出てみないかと誘われました。同じクラブ内の会員同志だけであるゲームに少し倦怠感を持っていたこともあったのでしよう。盲蛇を恐れずのとえ通り、ある大会にエントリーをしてしまいました。それもダブルスとシングルの両種目共に。ご想像とおりさんごんな負けっぷりで、もう金輪際、公式戦になんか出ないぞ、と自分に言い聞かせたものでした。ところが不思議なことに、暫くしたら惨めな負け方をした試合に何か今までに感じなかった魅力があるのに気がついたのです。ひょっとするとこれがあの「いい歳をした大人達」が一生懸命に、疲れるのも厭わず、試合に挑戦してゆく魅力なのかなあと思うようになりました。その正体の何であるかはまだ確かではありませんが、クラブや連盟のテニスには無い何かがあるような気がして、負けを承知で次の大会にも参加しようと思っています。出来れば3セットマッチにも挑戦してみたいと思っていますよ。

●Dさんの意見

テニスと一口に言っても非常に多様性が有る訳で、これがテニスの面白さにもなっているとおもいますが。われわれ壮年連盟の行事でしているダブルスを主体としたテニスは娯楽性を一番の目的としているのですから、まずテニスをして楽しくなくてはならないと思います。もちろん、この「楽しさ」も人によって、また、技量によってもまちまちであるのですからお役のかたのご苦勞が察しられますが。連盟の会員さんの全部がテニスをする事自体が楽しいと思っておいでであることは確かであるとおもいます。しかし、この楽しさをいかにしてより大きな楽しさにするかは意見の別れる所ではないでしょうか。連盟設立当初は、皆が集まって、とにもかくにも、曲がりなりにでもゲームが出来ればそれで充実感を味わえた、そんな雰囲気であったのを覚えています。それが、現状では、月例会等のありきたりの集まりでは魅力がなく、技量別大会、年齢別大会に人気があるように、あるカテゴリーの中で勝敗を争うことに魅力を感じる方が多くなっていますよね。この事実は、会員諸氏のテニスにおける有る種の進

歩を意味しているのではないのでしょうか。ミックスダブルスや年齢別ダブルスでテニスのプレー自体を楽しむ娯楽性と勝ち負けを争う競技性とが混然と交ざり有って一義的に決められないというのが実態なのではないのでしょうか。人の性格や技量によりこのどちらかへの傾き加減が違ってくるのでしょうか。連盟における各種の行事にしても、娯楽性と競技性という二者の匙加減が難しいのではないのでしょうか。4ゲーム先取も3セットマッチもそれなりに楽しさや魅力があるのでは。

●Eさんの意見

当連盟に直接関係はないけれどもこの場を借りてテニス協会に少し苦情を申し入れたい。北海道熟年TCのご意見だけではなく、私自身も、県協会の公式戦のほとんどが8ゲームプロセットで行われていることに納得がいかない。テニスのルール(Rules of Tennis)によれば、テニスの試合は3セットまたは5セットで行う事になっており、場合によってはタイブレークシステムを採用してもよいことになっている。8ゲームプロセットマッチは「テニスのルール」ではなく、トーナメント諸規則(Tournament Regulations)で定められている試合方法であり、使用コート面数、参加人員等により大会の運営が困難な場合の手段であり、JTAで認められているからといって全て8ゲームプロセットで試合が行われてもよいということではないだろう。聞くところによれば、宮城県テニス協会の最大イベントである宮城県テニス選手権大会も予選から決勝戦まで8ゲームプロセットで行われているそうだ。私は仙台に来るまでは、関東でテニスの試合に出ていたが、選手権大会という名のつく大会が8ゲームプロセットで行われたなどという話は聞いたことがない。宮城県が国体等の全国大会での実績があげられないのも、全日本レベルの大会に出られるようなプレーヤーがいないのも全てこの辺に原因があるのでは。コート面数が足りない等の理由だけで3セットマッチの試合が出来ないと嘯く協会の態度が宮城県のテニスのレベルを低いものにしていないだろうか。協会の反省を促したい。宮城県に住むテニス愛好者の一人として、県テニスのレベルの向上を望むが故の苦情である。

「ノー・アド」

公式大会において採用 に関連して

会員の皆さんの中には、シニアの試合その他でこの「ノー・アド」方式で試合をなさった経験をお持ちの方もおいででしょう。「いや、そんな言葉は聞いたこともない」という方がおいでかも知れませんので簡単に説明をしておきましょう。

「シングルス、ダブルスのどちらの試合においても、デュースになったとき、すなわち、3ポイント・オールになったとき、次ぎのポイント(7ポイント目)がゲームポイントとなる。いいかえれば、そのポイントを取ったプレーヤー(組)のゲームポイントになるということです。そして、この7ポイント目で

は、レシーバー側に、左右どちらのサイドでレシーブするかを選択権が与えられますので、自分(達)の得意なサイド、あるいは、サーバーの苦手なサイドでレシーブが出来る。」という方式です。

世界のテニスの総元締であるITFから各国のテニス協会に対して次ぎのような通達があり、JTA(日本テニス協会)でも国体、都市対抗、ジュニアおよびベテラン関係の大会にこの方式を採用する予定と聞いております。

ITFからの文章は次のようになっております。

"NO-AD" SCORING SYSTEM

A new option to the Rules of tennis called the No-Ad Rule is being tested at certain touna-

平成11年度 宮城県壮年テニス連盟行事予定表

月/日	宮城県壮年テニス連盟関連	会場	月/日	仙台市 宮城県 東北 日本テニス協会関連	会場
4/23(金)	WEEKDAY交歓会	宮	4/10~	宮城県春季トーナメント	泉、宮
5/18(火)	WEEKDAY交歓会	宮	5/16(日)	宮城県テニスマスターズ春季大会	宮
5/29(土)	4年 齒令 男子ダブルス大会	泉	8		
6/15(火)	WEEKDAY交歓会	宮	6/12~	国体一次予選	泉、宮
6/27(日)	フーフダブルス春季大会 ^P	青	7/10~	宮城県シングルス選手権	泉、宮
7/9(金)	WEEKDAY交歓会	宮	7/10~	宮城県シングルス選手権	泉、宮
7/18(日)	110歳ダブルス春季大会 ^P	青	8/2(月)~	東北ベテラン選手権大会	泉
8/11(水)	WEEKDAY交歓会	宮	9/7,8	東北マスターズテニス交流大会	大曲
8/22(日)	4年 齒令 男子ダブルス大会	泉	9/11~	宮城県選手権大会	泉、宮
9/9(木)	WEEKDAY交歓会	宮	9/25,26	対いわきVTC親善試合	いわき
10/3(日)	フーフダブルス秋季大会 ^P	青	10/4~	全日本ベテラン選手権大会	名古屋
10/5(火)	WEEKDAY交歓会	宮	10/17(日)	宮城県テニスマスターズ秋季大会	宮
10/9(土)	混合ダブルス大会	泉			
10/23(土)	110歳ダブルス秋季大会 ^P	青			
11/6(土)	連盟テニス祭り	泉			
11/12(金)	WEEKDAY交歓会	宮			
12/4(土)	平成11年度 総会 親睦会				

会場:宮=宮城野原、青=青葉山公園、泉=泉総合運動場

^Pのついた青葉山公園での大会日程は変更されることもあります
先般ご案内いたしました「行事予定表」に変更がありますのでご注意ください



平成11年度

宮城県テニスマスターズ
春季大会

上記大会が下記の要項で開催されます。この大会は宮城いきいき財団の依頼と協賛を得て、宮城県テニス協会が主催し、当壮年テニス連盟が主管のお手伝いをする大会でありまして、いきいき財団からの補助金をを受けておりますので参加費も格安となっております。また、平成11年度の宮城県ねりんピック選手の選考資料を得るための大会ともなっておりますので、県民であることを条件に、県テニス協会に登録されていない方でも参加することができる大会です。試合方法も各種目ともに総当たり戦を原則としておりますので、概ねまる一日プレーを楽しむ事が出来ると思われれます。連盟に加入していない方でお知り合いの方がおいででしたら、是非お誘い併せて下さい。参加申し込みは連盟事務局が代行いたしますので、氏名、生年月日、参加希望種目、パートナー氏名を明記(パートナーのいない方の単独申し込みも可としますが、人選については事務局にご一任願います)して、ハガキまたはFAXにて事務局宛てに申し込んで下さい。締め切り期限は

5月10日(月)

です。

大会要項

期 日 平成11年5月16日(日)
時 間 9時開始(8時45分までに集合)
会 場 宮城野原県営コート

種 目 女子 55歳以上 60歳以上 65歳以上
男子 60歳以上 65歳以上 70歳以上
いずれもダブルス6種目
年齢基準は平成12年4月1日における年齢とします(学年年齢)。
参加費 1000円/人 (当日会場で徴収)
試合方法 各種目ともにラウンドロビンとする
セルフジャッジで行う。
8ゲームプロセットマッチとし、ノーアドスコアリング方式で行う。
備 考 服装はテニスウェアに限る。
試合中の怪我には十分に注意すること

編集後記

● 連盟創立以来奥様ともども会員で、運営委員および 連盟幹事を長期にわたり担務されておられました本間満雄さんがこの度ご都合で千葉に居を移されることになりました。委員会内では、シルバー部門を担当していただき、東北テニスマスターズ、菊田メモリアル等の企画実施に尽力され、さらには、対いわきVTCや年末懇親会には欠くことの出来ないキャラクター振りを発揮していただきました。本号は本間会員に関するお話しを友人の方々に記していただきました。転居された後も会員として在籍され、仙台までテニスをしに来るとおっしゃっております。ご苦労さまでした。

● No-Ad ルール の採用でテニスが多岐にわたる様変わりしそうです。新ルール実施に関連した記事を集めてみました。

※ 編集発行 宮城県壮年テニス連盟運営委員会 ※
※ 事務局 ※
